

2020年12月13日(日)朝10:10

降誕前第2、自由交歓会等

12月第2共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：人々から苦しめられる主(12～)

聖書：マタイ 17章9～13節

<口語訳>

新約聖書27～ 頁

マタイ 17章9～13節

<新共同訳>

新約聖書33～ 頁

マタイ 17章9～13節

<新改訳第3版>

新約聖書34～ 頁

マタイ 17章9～13節

<塚本訳>

新約聖書119～120頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:9～13節**のの箇所から、「**神(天)の国**」(**神の真理・真実**)の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**人々から苦しめられる主(12～)**」は、預言者エリヤが来て、万事を元どおりにしてからおいでになると、「**御子イエス・キリスト様**」は、暗にご自身をさして、弟子たちに語られました。
- ⇒弟子たちは、「**御子イエス・キリスト様**」の話から来るべき預言者エリヤは、バプテスマのヨハネであり、**領主ヘロデ**によって殺された者であることを悟ったのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちに「**神(天)の国**」(**神の真理・真実**)の現実を受け取ってほしかったのですが、まだ、機は熟していませんでした。
- ⇒それで、目撃した現実を話す事を禁じられた。

本論；

◇本日、**マタイ書17:9～13節**から主の**使信**に
思い・心 $\nu\omicron\upsilon\varsigma$ (nouj)をとめます。

◆**マタイ17章9～13節**；使徒**マタイ**は、

「人々から苦しめられる主(12～)」との主のみ
ことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている
「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**17:9～13節**；塚本訳◆エリヤ問答

- 「9 山を下りながら、イエスは、「人の子(わたし)
が死人の中から復活する前には、(いま)見
たことをだれにも言うな」と彼らに命じられた。
- 10 すると弟子たちがこう言ってイエスに尋ねた、
「では、なぜ聖書学者は、まずエリヤが(来て
そのあとで人の子が)来るべきである、と
言うのですか。(人の子は来られたのに、エリヤ
はまだ来ないではありませんか。)」(彼らは山
の上のことを思い浮かべたのである。)
- 11 答えられた、「たしかに『エリヤが』来て万事
を『整頓するであろう。』
- 12 しかしわたしは言う、すでにエリヤは来た。
ただ人々は彼を(それと)認めず、したい放題
のことを彼にし(て殺してしまっ)たのである。

(だから)同じように、人の子(わたし)も人々から苦しみをうけねばならない。」

13 その時弟子たちは、洗礼者ヨハネのことを指して(エリヤと)言われたのだと悟った。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ17:9節**は、「**御子イエス・キリスト様**」が、姿変わりされた現実を口外しないよう命じられたところです。それは、主の十字架の死と復活の**神の時**が熟していなかったからです。

⇒バプテスマのヨハネが、主の弟子たちや人々に悔い改めを求めた時、エリヤの霊を負って来ていることは、主も証しして下さいました。

◇**マタイ17:10～13節**は、主は、「エリヤはすでにきたのだ」(12)と、語られ、彼を理解できない人々によって殺され、それは、ご自身にも及ぶものであることを示されたのです。

⇒主の弟子たちも、エリヤの霊をもって来たのは、バプテスマのヨハネのことだと気づきました(13)。

⇒主の弟子たちは、主が真摯に語られても、霊の感覚がまだまだ鈍かったのです。

⇒ピリピ1:8～11;【口語訳】

8 わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなたがた一同を思っていることか、それを証明して下さるかたは神である。

9 わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、

10 それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、

11 イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。

⇒主のみことばに対する霊の感覚が鈍くなるのは、主の事を思わず、主の弟子たちのように、自分の誇り、名誉、社会の立場などを必要以上に気にしてしまうからです。

⇒主を伝道できることは、素晴らしいことですが、もっと大事なことは、状況が良くても、悪くても、主に密着し、祈りとみこばへの静聴を最優先することです。

⇒アシュラム、あらゆる種類の静聴の方法などが、大事です。

⇒主の名によって集まる場所には、主もともにおられますので、主と一体になって歩む人を主はほおっておかれませんか。あせる必要は、全くありません。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:9～13節**のの箇所から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**人々から苦しめられる主(12～)**」は、預言者エリヤが来て、万事を元どおりにしてからおいでになると、「**御子イエス・キリスト様**」は、暗にご自身をさして、弟子たちに語られました。
- ⇒弟子たちは、「**御子イエス・キリスト様**」の話から来るべき預言者エリヤは、バプテスマのヨハネであり、**領主ヘロデ**によって殺された者であることを悟ったのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちに「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)の現実を受け取ってほしかったのですが、まだ、機は熟していませんでした。

⇒それで、目撃した現実を話す事を禁じられた。

⇒イザヤ42:5～9;【口語訳】

- 5 天を創造してこれをのべ、地とそれに生ずるものをひらき、その上の民に息を与え、その中を歩む者に霊を与えられる／主なる神はこう言われる、
- 6 「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手をとり、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え、
- 7 盲人の目を開き、囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる。
- 8 わたしは主である、これがわたしの名である。わたしはわが栄光をほかの者に与えない。また、わが誉を刻んだ像に与えない。
- 9 見よ、さきに預言した事は起った。わたしは新しい事を告げよう。その事がまだ起らない前に、わたしはまず、あなたがたに知らせよう」。

⇒トゥールナイゼンが、長い間癌で苦しんだ末、召された信徒の葬儀で説教をし、ピリピ3:20の箇所から故郷権があるのであると語った。